（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室			
○保護者評価実施期間	R8年2月1日	～	同年2月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	43	（回答者数）	23
○従業者評価実施期間	R8年3月2日	～	同年3月28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い職員構成: 経験豊かな専門職が在籍しており質の高いサービスを提供できます。特に言語聴覚士が多数在籍している点は、地域の他施設にはない強みです。	・行政、園、および学校との連携を通じて、専門的支援の必要性を実感していただく。 ・全国に専門職とのネットワークを有しており、オンラインでの意見交換や研修会・後援会を行っている。 ・本年度は、「こどもの摂食嚥下」に関する市民公開講座を無料で行った。 ・弊社利用のお子さんの成長を通して、弊社の支援力の高さを実感していただく。	・職員のスキル向上を図る（OJT、事例検討、職員研修会の開催、関連学会への参加）
2	専門職の常勤: 発達支援事業所に常勤の言語聴覚士や作業療法士がいない中で、常勤の専門職を揃えており、安定したサービスを提供できる点が大きな強みです。		地域との繋がりを深化させる（職員の他施設指導、市民公開講座の実施、関連会議への参画） 職員の関連団体理事や代表委員としての活動を推奨
3	保護者支援: 対象児への専門的支援だけでなく、親支援こそ大切にしています。ご家庭や園・学校での困りごとへの相談やアドバイス、お子さんの気持ちの受け止め方、意思表出の方法などを直接学ぶことができます。		保護者、保育者、教師、専門家それぞれをターゲットにしたワークショップやセミナーを開催する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスの未実施: 他の事業所が施設間の送迎サービスを提供している中で、SLCでは送迎を行っていない。特に交通手段が限られている家庭にとって利用のハードルが高くなる。	・事業所スタッフが送迎することの危険性が薄れている →事故等の危険性０%、安全性100%を担保すべき ・発達支援は「お預かり」という意識がある →大人側の知識不足 ・先進的な市町に比し、発達障害や支援に関する啓発活動やこども支援への熱量が低い →地域の早期発見・早期支援の未確立 ・専門職や児童福祉サービスの住民認知度の低さ →どこに行けば相談できるのかが不明瞭。教育現場からの児童福祉サービスの受け入れが十分ではない	・職員による送迎は今後も実施しない（発達支援は親支援であること、事業所スタッフはプロドライバーでないことより） ・車のない家庭を対象としたオンラインサービス（自費）の提供を行う ・利用者への手厚い支援を継続しておこなう。
2	規模の小ささ: 小規模事業所であるため、サービスの範囲や対応できる人数に限りがあり、急増する需要に対応するのが難しい場合があります。		症状の程度に基づいて、1人あたりの利用回数を厳密に選定 し、利用者枠の余白調整に努める。
3	発達障害、発達の早期支援、言語聴覚士の認知度の低さ: この地区には、「小学生になれば出来るようになる」「様子をみましょう」といった文化・風潮があるため、地域住民への認知度を向上させる必要があります。また、言語聴覚士について認知されておらず、どのようなお子さんに関わる職業なのか知らない住民が多いと言えます。		・市民向けのイベントの開催、園・学校の保護者会などでの講師派遣ができることを啓発していく。 ・車のない家庭を対象としたオンラインサービス（自費）の導入を推進する。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室

公表日　R8年4月6日

利用児童数　43　回収数　23

		チェック項目	はい	どちらとも	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	3		1	・場所を移動し学ぶスペースも用意してもらい部屋全体を使い活動させていただいています。 ・とても安心できる環境です。	当事業所は大人数で遊ぶようには設定しておりません。また、お子さんによっては周囲からの刺激の多い中でも集中して活動できるようになる
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	3		1	言語聴覚士が在籍する施設は他にありません、満足です。	今後もニーズに応えらえれるように努力します。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	9	1			部屋や物のレイアウトなど、自宅でも真似しています。 ・他施設と比べて、ここでの練習は子供が集中して取り組むことができています。	安全に配慮しながらお子さんにあった対応をさせていただきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10				・専門的に、的確にいろんなアドバイスをいただいています。	今後も丁寧なかかわりを徹底していきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	10					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	10				・将来に対する前向きな展望が描けました。	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	8		1	1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	10				子どもの状況にあわせて臨機応変に課題を変えているのがわかります。	お子さんの特性や成長に応じて、適宜プログラムの変更を行い、できるだけ自分でできることを増やすように関わっています。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	8			2	・個別指導を受けたいので、この問いにあることは求めていません。 ・集団であればそういった関係づくりもあっていいが、個別の専門的な支援を求めています。	当社では、個別での親子支援を重視しています。ご希望に応じて園に出向き、保育士さんとの対話やお子さんに対する直接支援も行っています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	10					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9		1			
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9		1		・ペアトレは知りませんが、毎回相談に乗ってくださるため、ホッとできますし、子育ての困り感へのアドバイスもしていただいています。	ありがとうございます。今後も保護者会や学習会を行いますので、ぜひご参加ください。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	10				・毎回、やって頂いています。 ・こどもに対する理解が深まっています。	ありがとうございます。今後もお子さんの成長を促せるようご家族のみなさんと力をあわせて取り組んでまいります。

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	8		1	1	・毎回、やって頂いています。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	10				全員が優しく声をかけてくれるので居心地がいいです。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6		1	3	勉強会に参加し将来の方向性を学べました。	今後も学習会を実施しますので、是非ご参加ください。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7		2	1	色んな相談にすぐに対応してくださいます。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	8		2		子どものあとに時間をとって相談にのってくだいます。	子どもの成長はご家族の物心両面にわたるサポートで成り立ちます。悩み事、楽しかったことなどたくさんお話ししていただけるように心がけます。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	8			2	ITは苦手です	わかりやすい発信（紙媒体の使用など）を心がけていきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6		1	3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5		1	4		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	10					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10					
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	10					
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	9			1	・他所にも通っていますが、一番楽しみにしている様子です。 ・日によってまちまちでして、、、	苦手なことにも前向きに取り組んでくださっていてうれしいです。達成感を多く経験できるように課題を調整していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	10				・コミュニケーション能力が向上した。 ・学習面での進歩が感じられる。 ・将来に対する前向きな展望が描けた。	今後もお子様の興味や成長に合わせた関わりを工夫していきます。

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室	公表日	R8年4月6日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適	6			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6	外部評価は行ってはいないが、外部からの意見をしっかりと取り入れていると思います。	第三者評価は行っていない。今後は、系列店の管理者による相互評価を取り入れ、客観的な支援を業務改善に活かしていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			

援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			個別中心であるが、状況に応じて小集団での活動も検討していきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		支援において、指導員が互いに意見を交換し、より効果的な支援を展開している。週に1回程度の事例検討を行っている。	オープンスペースでの支援のため、全ての支援場面を全スタッフ・保護者がみて学習できます。支援の具体に対しては、空き時間で情報共有し、担当外のスタッフでもサポートできるようにしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	4	2		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3		相互理解と連携は重要です。全職員がこの姿勢をもって支援にあたるように心がけます。
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。		6	どちらかというと、弊社へアドバイスをもとめられることが多い。センター的施設からは時々学習会の案内がきているが、業務の調整が難しくなかなか参加できていない、	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6	電話等で情報を共有し、支援のズレがおきないように心がけている	職員は担当児の支援に入る必要があり、なかなかできていない。管理者と他施設の代表者で密に連絡をとっている。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			

	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		毎回、セッション終了時に実施しているが、いわゆるペアトレとは異なっている。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4		保護者同士の集まりは当社では一般公開講座として開催していく、
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1		マニュアル化して、だれでも対応できるように努める。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			頻繁に発信をしたが、利用者ご家族はあまり閲覧されない。紙媒体で室内に掲示する等の代替を行っていく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			マニュアル作成済みであるが、避難訓練は職員だけで継続実施していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	5	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1		
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	2		

	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6			今年度職員全員に研修会を行う

（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室 Chikugo			
○保護者評価実施期間	R8年2月1日	～	同年2月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	41	（回答者数）	23
○従業者評価実施期間	R8年3月24日	～	同年3月30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い職員構成: 言語聴覚士を中心とした専門家チームにより、質の高いサービスを提供できます。特に言語聴覚士が多数在籍している点は、地域の他の施設にはない強みです。	・行政・園・学校との連携を通じて、専門的支援の必要性を実感していただく。 ・弊社利用のお子さんの成長を通して、弊社の専門力の高さを実感していただく。	職員のスキル向上を図る（OJT等、事例検討、職員研修会の開催）
2	専門職の常勤: 気軽に専門家と相談できる場を提供します。		地域との繋がりを深化させる（職員の地域派遣）
3	親への支援: 対象児への専門的支援だけでなく、親支援こそ大切にしています。ご家庭や園・学校での困りごとへの相談やアドバイス、子育て中の方々の子育て力の底上げを図ることができます。		親や保護者、保育者をターゲットにしたワークショップやセミナーをオンラインで開催

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスの欠如: 他の発達支援事業所が送迎サービスを提供している中で、SLCでは送迎を行っていないため、特に交通手段が限られている家庭にとって利用のハードルが高くなります。	・児童福祉サービスにおいて、事業所スタッフが送迎することの危険性が薄れている ・地域の発達障害や支援に関する認識が低い ・先進的な市町に比し行政の子ども支援への熱量が低い ・教育現場からの児童福祉サービスの受け入れが十分とは言えない	・発達支援は親支援であること、事業所スタッフはプロドライバーでないことより、職員による送迎は今後も実施しない。 ・車のない家庭を対象としたオンラインサービスの導入を検討する。
2	規模の小ささ: 小規模事業所であるため、サービスの範囲や対応できる人数に限りがあり、急増する需要に対応するのが難しい場合があります。		お子さんの特性に基づいて、1人あたりの利用回数を厳密に選定する。
3	発達障がい、発達の早期支援、言語聴覚士の認知度の低さ: この地区には、「小学生になれば出来るようになる」「様子をみましょう」といった文化・風潮があるため、地域住民への認知度を向上させる必要があります。また、言語聴覚士について認知されておら		園・学校・行政も参加できる研修の場を計画し、積極的に専門職の啓発活動を行う。

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室 Chikugo

公表日　R8年4月6日

利用児童数　41　　回収数　23

		チェック項目	はい	どちらとも	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19	3		1	・場所を移動し学ぶスペースも用意してもらい部屋全体を使い活動させて頂いてます。 ・とても安心できる環境です。	当事業所は、大人数で遊ぶようには設定しておりません。また、お子様によって周囲からの刺激の多い中で、集中して活動できるようになることが大きな目標であることから、より日常に近い状況でご本人の力を育んでいけるよう努力してまいります。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19	3		1	・学んで帰った後次回何が必要で何をしたら良いのかを常に考えてもらっていると思います。	今後もニーズに応えられるよう、努力してまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	12	7		4	・部屋や物のレイアウトなど、自宅でもマネさせていただいています。 ・他の施設と比べて、ここでの練習は子どもが集中して取り組む事ができています。	安全に配慮しながらお一人お一人に合わせて対応させていただきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	2		1		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	21	1		1	・専門的にいろんなアドバイスを頂いています。	今後も丁寧な説明と対応を徹底していきます。わかりにくい点等ありましたらお気軽にお声かけください。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	19			4		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	21	1		1		
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	5				
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21			1		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	18	5			まずは一つ一つの事をしっかり理解し覚えていく事が必要だと思うので、同じ感じの事を積み重ねて行く指導をしっかりしていただいています。	おっしゃる通りです。できた！の繰り返しが次の成長の糧になります。お子様の特性や成長に合わせて、適宜プログラムの難易度や活動内容を変化させています。ご家庭での様子も聞きながら対応してまいります。
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	7	3	8	5	発達の遅れがあるので、そういった活動は現在は求めていません。	お子さまが通う学校と連携して支援していけたらと考えています。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	22	1				
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	1				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	20	2		1		

保護者への説明等	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21	1		1		
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	22	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	17	4	1	1		
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10	7	1	5	なかなか参加できてませんが、都合良い時はぜひ参加したいです。 ・保護者支援はありますが、保護者会はあっているのか分からないです。すみません。	今年度も開催予定ですので、是非ご参加ください。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	11	2		10		
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22		1			
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	15	2	6		私がHPとかSNSとか苦手ですみません。	現在お知らせは、Instagram、公式ライン、ホームページにて発信させていただいております。次年度からはHP更新等もラインでご案内させていただきます。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	18	1	4			
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施	11	2	8			
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	3	5	13		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	15	5		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	6	6	1	10		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	17	4		2		
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	17	4	2		・先生方に会うのを楽しみにしています、私も（笑）	行きたくないと感じる時があるのは自然なことと思います。まずはお子さんの気持ちを受け止めるようにし、好きな課題をセッションに盛り込み、「行ったら楽しかった」という体験を重ねられるように工夫・調整していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	21	1	1			

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室 Chikugo	公表日	R8年4月6日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			安全にしっかり配慮しながら対応していく。安全性に不安がある場合は、複数スタッフでの支援に切り替えるなど一人ひとりに合わせた支援を行う。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	0	6		現在、第三者による外部評価は実施してない。今後は、系列店の管理者による相互評価を取り入れ、客観的な視点を業務改善に活かしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	6			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6			
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。+C23:C24	6			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6			個別も集団もお子さんの状態に応じて実施している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			オープンスペースでの支援のため、全ての支援場面を全スタッフ・保護者が見学し学習できる。支援の具体的な内容については、空き時間等で情報共有し、担当外のスタッフでもサポートできるようにしている。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	4	2		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	6			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6			
関係機関や保護者との連	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	4	2		関係機関との連携は重要である。全職員がこの姿勢を持って支援にあたるように指導していく。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	2	4		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	6		保護者同伴のサービスを行っており、児童クラブや学校担任と交流を行うことが職員個々ではできていないが、管理者や他施設の代表者レベルで連携を推進している。

連携	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	1		個別支援を行っている関係上、開催日時によって参加できない職員が生じる。時間調整できる代表や児童発達支援管理責任者が参画している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6			毎回、担当スタッフが保護者の意見を伺い、専門的な見立てに基づいたフィードバックとアドバイスをおこなっている。今年度、子育ての困り感への対応について動画配信を企画している。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	6			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4		保護者同士の集まりは、個別支援中心の事業所であるため実施が難しい。昨年は2回実施したが、利用者の都合もあり参加者数は非常に少なかった。今後も講座や研修会等を開催する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	2		広報担当を置き相当数の広報を行った。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		当事業所の特性上集団での活動や行事は現在難しい。市民公開講座を引き続き開催し地域に開かれた事業所になるよう工夫する。
非	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	3		マニュアルは作成済みであるが、事業所の支援特性上、利用者を含めた訓練は難しい。引き続き、職員だけの防災訓練や避難経路の確認を行なっていく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	3	3		
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4	2		
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	2	4		当事業所では飲食物の提供を行っていない。アレルギーについては、アセスメントにおい確認に努める。

非常時等の対応	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	2	4		安全管理に関する研修会への参加や伝達講習を行い、職員の知識習得に努めるようにする。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	4	2		マニュアル化を検討し、職員が共通の方針で対応できるように整備する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	1		ヒヤリハットについては情報共有しているが、これまでに該当事案が起きておらず事業所独自の事例集作成はできていない。今後一般的なものを参考に作成を検討する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	2		今年度、職員全員に実施予定である。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	2		

（別紙６）

公表　訪問先施設からの事業所評価の集計結果

事業所名	公表日	Ｒ８年　4月　６日
株式会社SLC　ことばと発達の相談室　Chikugo	利用児童数	1　　回収数 1

	チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	ご意見	ご意見を踏まえた対応
1	訪問支援員からの助言や説明は、具体的でわかりやすく、取り入れやすいものですか。	1				
2	訪問支援員の支援に対する知識・技術等に満足していますか。	1				
3	訪問支援員は質問に対して、適時・適切に回答してくれていますか。	1				
4	保育所等訪問支援を利用したことで、課題や困りごとが解消または軽減されましたか。	1				
5	事業所からの支援に満足していますか。	1				

その他のご意見	ご意見を踏まえた対応
生徒の特性を理解し、一つひとつの言動に丁寧に向き合うことの大切さを強く感じました。 実際に、学校での活動が大きく向上しており、支援の有効性を実感しています。 できれば今後も継続して関わっていただき、さらに訪問の機会が増えるととても助かります。	お子さまの特性を理解し、言動の背景を丁寧に捉えることを大切にしながら支援を行っております。学校での活動の向上が見られたことを大変うれしく思います。 今後も学校との連携を大切にし、継続的な支援に努めてまいります。訪問回数についても、支援体制の中で検討してまいります。

（別紙５）

公表　保護者からの事業所評価の集計結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室 Chikugo

公表日　R8年　4月　6日

利用児童数　1　　回収数　1

		チェック項目	はい	どちらとも	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	訪問支援に使用する教具教材が整えられていますか。				1		
	2	プライバシーに配慮された面接室等が整えられていますか。	1					
	3	事業の目的が適切に説明されていると思いますか。	1					
	4	保育所等訪問支援の頻度や時間について、相談の上決定されていますか。	1					
適切な支援の提供	5	こどもの状態に応じた支援が提供できる職員（職種や人数）体制だと思いますか。	1					
	6	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	1					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、保育所等訪問支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	1					
	8	保育所等訪問支援計画（個別支援計画）には、訪問先施設や担任等の意向が盛り込まれていると思いますか。	1					
	9	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の提供すべき具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	1					
	10	保育所等訪問支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	1					
	11	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先施設に配慮した支援が行われていると思いますか。	1					
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1					
	13	「保育所等訪問支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	1					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行なわれていますか。	1					
	15	必要なときにこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができていると思いますか。	1					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	1					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	1					
	18	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	1					
	19	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	1					
	20	事業所は、訪問先施設からの相談等に適切に応じ、必要な助言と支援が行われていると思いますか。	1					

	21	保育所等訪問支援を実施した際に、訪問先施設と訪問支援の内容について話し合いが行われていると思いますか。	1					
	22	保育所等訪問支援を実施した際に、保護者に対して適切に共有がなされていると思いますか。	1					
非常時等の対応	23	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	1					
	24	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	1					
	25	事業所では、緊急時の対応について訪問先施設と連携し、実践できるようにしていると思いますか。	1					
満足度	26	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	1					
	27	こどもは訪問支援を嫌がっていませんか。	1					
	28	事業所の支援に満足していますか。	1					

（別紙７）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室 Chikugo	公表日	R8年　4月　6日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫していると思う点・改善が必要だと	課題や改善すべき点
営・体制整	1	訪問支援に使用する場合の教具教材は適切であるか。	1			
	2	利用希望者に対して、職員の配置数は適切であるか。	1			
業務改善	3	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	1			
	4	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	1			
	5	従業者の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか 。	1			
	6	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		1		
	7	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	1			関西、鹿児島地区にて保訪を行う言語聴覚士を講師にオンライン研修会を実施した。
適切な支援の提供	8	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、保育所等訪問支援計画を作成しているか。	1			
	9	保育所等訪問支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか 。	1			多数の支援者が計画作成にかかわっている。
	10	保育所等訪問支援計画を作成する際には、訪問先施設の担当者等と連携し、訪問先施設や担任等の意向を盛り込んでいるか。	1			先生方と話す時間を多くとっていただけた。
	11	保育所等訪問支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	1			
	12	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	1			
	13	保育所等訪問支援計画には、保育所等訪問支援ガイドラインの「保育所等訪問支援の具体的内容」も踏まえながら、具体的な支援内容が設定されているか。	1			
	14	保育所等訪問支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	1			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	1			
	17	保育所等訪問支援を実施する際、訪問先の理念や支援手法を尊重して支援を行っているか。	1			

	18	毎回の支援に関して、記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善に繋げているか。	1			
	19	定期的に保護者や訪問先の意向の確認やモニタリングを行い、保育所等訪問支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	1			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	1			
	21	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	1			
	22	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	1			
	23	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等に助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	1			
	24	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	1			
	25	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	1			
	26	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1			
保護者等への説明等	27	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	1			
	28	訪問先施設に対し、事業の趣旨や訪問支援の目的等について適切に説明を行っているか。	1			
	29	保育所等訪問支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	1			
	30	「保育所等訪問支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から保育所等訪問支援計画の同意を得ているか。	1			
	31	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか。	1			
	32	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	1			
	33	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	1			
	34	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	1			
	35	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	1			
	36	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	1			

訪問先施設への説明等	37	訪問支援に加え、訪問先からの相談等に適切に応じる体制を整え、必要な助言や支援を行っているか。	1			
	38	保育所等訪問支援の実施後に、訪問先施設とカンファレンスを行っているか。	1			
	39	保育所等訪問支援の実施後に、家族等へ適切に支援内容等の共有を行っているか。	1			
	40	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	1			
	41	訪問先施設からの相談に適切に応じ、信頼関係を築きながら、専門的な助言を行っているか。	1			
非常時等の対応	42	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	1			
	43	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	1			
	44	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	1			
	45	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	1			
	46	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	1			

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室 Chikugo			
○保護者評価実施期間	R8年2月1日	～	同年2月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	43	（回答者数）	23
○従業者評価実施期間	R8年3月2日	～	同年3月28日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6	（回答者数）	6
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い職員構成: 4名の言語聴覚士、1名の児童指導員（社会福祉士）という専門家チームにより、質の高いサービスが提供できます。特に言語聴覚士が多数在籍している点は、地域の他施設にはない強みです。	・行政、園、および学校との連携を通じて、専門的支援の必要性を実感していただく。 近隣市における子育て支援事業等に参画する。 乳幼児健診、発達相談、親子教室への出務。 県教育委員会巡回指導への出務。 みやま市保育園巡回指導への出務。 地域会議やイベントへの積極的参加。 地区小学校への助言。 ・週1回のケースカンファレンス実施。 職員の見立て力、支援技術の向上を図る ・講演会や研修会の開催 現在の子どもに関わる情報の発信と社会啓発 地域の関係者への学習機会の提供	職員のスキル向上を図る（OJT等、職員研修会の開催） 職員募集 職員の研修会・学会費用の全額負担
2	専門職の常勤: 筑後市の発達支援事業所に常勤の言語聴覚士や作業療法士が少ない中で、常勤の専門職を揃えており、安定した専門的サービスを提供できる点が大きな強みです。		地域との繋がりを深化させる（職員の地域派遣） 職員の関連団体理事や代表委員としての活動を推奨
3	保護者同伴: 対象児への支援だけでなく、親支援こそ大切にしています。ご家庭や園・学校での困りごとへの相談やアドバイス、子育て中の方々の子育て力の底上げを図ることができます。		職員の関連学会参加を推奨

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	発達障がい、早期支援、言語聴覚士の認知度の低さ: 発達障がいの知識や早期支援の重要性について、地域住民への認知度を向上させる必要があります。また、言語聴覚士についても認知されておらず、どのような職業なのか知らない住民が多いと言えます。	・発達支援サービスはお預かりという意識がある。	市民向けのイベントの開催、園・学校の保護者会などでの講師派遣ができることを啓発していく。
2	規模の小ささ: 小規模事業所であるため対応できる人数に限りがあり、急増する需要に対応するのが難しい場合があります。	・発達支援事業などの子ども支援、言語聴覚士等の専門職が社会インフラであることの認識が低い。 ・1日10人といった受け入れ上限があるため、お断りしなければならないご家族が多数いらっしゃる。	症状の程度に基づいて、1人あたりの利用回数を厳密に選定し、利用者枠の余白調整に努める。
3	送迎サービスの未実施: 他の発達支援事業所が送迎サービスを提供している中で、当社では送迎を行っていません。特に交通手段が限られている家庭にとって利用のハードルが高くなります。	・オンライン言語療法や発達支援が発達支援サービスに含まれない。	車のない家庭を対象としたオンラインサービス（自費）の導入

児童発達支援

（別紙４）

公表　援児童発達支援保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室 Chikugo

公表日　R8年4月6日

利用児童数　43　　回収数　23

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	10	0	1	1		
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	11	0	0	1		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	11	0	0	1		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	11	0	1	0		
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	10	0	1	1	ここでは最後まで一生懸命に課題に取り組めています。	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	10	0	1	1		
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	12	0	0	0		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	11	0	1	0	苦手なことにも挑戦できるようになってきたことは、具体的な支援の効果です。	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	12	0	0	0		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	12	0	0	0	子どもが興味を引く教材を使って、こどもに合わせた伸ばし方をして下さっています。	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	5	0	2	5	・個別指導を受けたいので、問いにあることを求めていません。 ・集団であればそういった関係つくりもあっていいが、個別の支援を求めています。	
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	11	0	0	1		
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	12	0	0	0		
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	12	0	0	0	ペアトレを受けた立場からすると、ここの先生とのやり取りの方がすごくためになっています。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	12	0	0	0	個々の特性をよく見てくださっているのがよく分かる。語りが優しくて安心できる。	
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	12	0	0	0	いつも相談にのってくださり、今では子育てに自信をもてるようになった。	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	12	0	0	0	語りが優しくて安心できる。	
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	2	4	1	5	きょうだいの事も気にかけて頂いています。 保育園ではないので父母会などは不要です。	

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	8	0	0	4	他施設のこと、進学先のことなどをよくご存じで、適材適所のアドバイスがいただけます。	
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	12	0	0	0	受付してくださる女性の先生のアドバイスが的確でいつも納得して帰れます 公式LINEで必要な情報をいただいています	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	6	0	1	5	保護者も同伴なので、利用した日に詳しく教えて下さっています。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	12	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	4	0	1	7		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	2	2	0	8		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	10	2	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	12	0	0	0		
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	12	0	0	0	ここでの活動中はこどもの癇癪がみられません。	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	12	0	0	0	ここでの活動では苦手なことにも挑戦している様子がある。	
	29	事業所の支援に満足していますか。	12	0	0	0	・この施設に通い出して、子どもが勉強に興味をもちだしました。 ・癇癪がでなくなった ・子どもとの接し方の勉強になっています ・日常生活を送るうえでのスキルが身についてきた	

児童発達支援

（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室　Chikugo	公表日	R8年4月6日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか 。	6			
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	3	3		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	2	4		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	2		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6			
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか 。	6			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6			
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5	1		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	1		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	2		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4	2		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4	2		

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	3		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	3	3		
	28	（28～30は、センターのみ回答） 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	（31は、事業所のみ回答） 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか 。		6		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		6		
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2		
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか 。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			

保護者への説明等	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	4		
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1		
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6		
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	5	1		
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	2	4		
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6			

（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室			
○保護者評価実施期間	R8年2月1日	～	同年2月28日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	55	（回答者数）	24
○従業者評価実施期間	R8年3月24日	～	同年3月30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	7
○事業者向け自己評価表作成日	R8年4月6日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い職員構成: 経験豊かな専門職が在籍しており質の高いサービスを提供できます。特に言語聴覚士が多数在籍している点は、地域の他施設にはない強みです。	・行政・園・学校との連携を通じて、専門的支援の必要性を実感していただく。 ・全国に専門家とのネットワークを有しており、オンラインでの意見交換や、研修会・講演会を行っている。 ・本年度は、「こどもの摂食嚥下に関して市民公開講座を無料で行った。 ・弊社利用のお子さんの成長を通して、弊社の支援力の高さを実感していただく。	職員のスキル向上を図る（OJT等、事例検討、職員研修会の開催、関連学会への参加）
2	専門職の常勤: 柳川市の発達支援事業所に常勤の言語聴覚士や作業療法士がいない中で、常勤の専門職を揃えており、安定したサービスを提供できる点が大きな強みです。		地域との繋がりを深化させる（職員の他事業所支援、市民公開講座の複数回実施、関連会議への参画）
3	保護者への直接支援: 対象児への専門的支援だけでなく、親支援こそ大切にしています。ご家庭や園・学校での困りごとへの相談やアドバイス、子育て中の方々の子育て力の底上げを図ることができます。		保護者、保育者、教育者、専門家それぞれをターゲットにしたワークショップやセミナーを開催する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎サービスの未実施: 他の事業所が施設間の送迎サービスを提供している中で、SLCでは送迎を行っていない。特に交通手段が限られている家庭にとって利用のハードルが高くなる。	・事業所スタッフが送迎することの危険性が薄れている →事故等の危険性０%、安全性１００%を担保すべき ・発達支援は「お預かり」という意識がある →大人側の知識不足 ・先進的な市町に比し、発達障害や支援に関する啓発活動や子ども支援への熱量が低い →地域の早期発見・早期支援の未確立 ・専門職や児童福祉サービスの住民認知度の低さ →どこに行けば相談できるのかが不明瞭、教育現場からの児童福祉サービスの受け入れが十分ではない	・職員による送迎は今後も実施しない（発達支援は親支援であること、事業所スタッフはプロドライバーでないこと） ・車のない家庭を対象としたオンラインサービス（自費）の提供を行う ・利用者への手厚い支援を継続しておこなう。
2	規模の小ささ: 小規模事業所であるため、サービスの範囲や対応できる人数に限りがあり、急増する需要に対応するのが難しい場合があります。		症状の程度に基づいて、1人あたりの利用回数を厳密に選定し、利用者枠の調整に努める。
3	発達障害、発達の早期支援、言語聴覚士の認知度の低さ: この地区には、「小学生になれば出来るようになる」「様子をみましょう」といった文化・風潮があるため、地域住民への認知度を向上させる必要があります。また、言語聴覚士について認知されておらず、どのようにお子さんに関わる職業なのか知らない住民が多いと言えます。		地域イベントや園・学校の保護者会などで積極的に啓発活動を行う

（別紙４）

公表　保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室

公表日　R8 年　4月　6日

利用児童数　55　回収数　24

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23	1				
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19			5		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	22	2			隣の部屋の声や音が気になり、気がそれることがあった。	実生活に近い環境で支援を行い、練習の成果がご自宅や園でも発揮できることを目指しています。騒がしさに集中が保たなかったり、お子さまの育ちの特性に応じて指導員が随時対応します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	20	4				
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	20	4				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか 。	22	2				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19	4		1		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援 」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	3		2		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	21	1		2		
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	21	2		1		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	6		12	6	その部分は、事業所に求めていません。	ことばと発達の相談室では個別での子ども支援と保護者への支援を重視しています。ご希望に応じて園に出向き、保育士さんやお子さまの現場での支援も行っています。
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	24					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22	2				
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	23			1	いつも丁寧にご助言いただいています。	ありがとうございます。保護者会や研修会も開催しますので、是非ご参加ください。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	22	2				
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23	1				
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21	3				
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	8	3	5	8		

	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	23	1				
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22	1		1		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	12	4		8	SNSやホームページを見る暇がありません、すいません。	
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	5	1	2	16		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	5	1	1	17		
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか 。	20	1		3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	19	5				
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか 。	21	3				
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	20	4			①療育センターと並行して利用している為、勉強ばかりは嫌だとモチベーションの浮き沈みがある。②最初は楽しみにしていたけど最近はイヤイヤなことが多くなってきた。③イヤイヤ期もあって、いきたがらない日もあったりしますが、それは、事業所が嫌とかではなく、その時の流れだったり、気分だったり、機嫌だったりです。でも、お勉強自体は、できるようになるのがとても嬉しいようです。④苦手な部分の訓練をしているので。行くのは億劫ですか、先生方々のサポートの元頑張って通っています。⑤保育園の途中で訓練にきているので、自分がやりたいことをしている時は、勉強行かないとぐすったりしますが、行ったら行ったで訓練を頑張ってる姿はみられます。	①モチベーションの波がある中でも、並行して通っていただき感謝しております。無理のないペースで、楽しさも取り入れながら進めてまいります。②最近の変化を教えていただきありがとうございます。イヤイヤな気持ちにも寄り添い、少しでも楽しく感じられるよう工夫していきます。③その日の気分や機嫌はとても自然なことです。できるようになる喜びを感じているとのこと、私たちもとても嬉しいです。④苦手なことにも前向きに取り組んでくださっていて素晴らしいです。これからも安心して通っていただけるよう丁寧にサポートいたします。⑤やりたいことを中断するのは難しい時もあります。それでも訓練を頑張っている姿を見せてくれるのは本当に立派です。
	29	事業所の支援に満足していますか。	22	2			①正直なことを言うと新年度になったら先生が変わってほしいなと思っている(笑)②いつも丁寧に子どもを見ていただきありがとうございます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。③色々な教材を使ってもらって初めてのことも多く刺激をたくさん受けています。	①率直なお気持ちをありがとうございます。どの先生とも安心して過ごせるよう、チームで連携しながら支援してまいりますね。②あたたかいお言葉をいただきありがとうございます。今後も丁寧な関わりを大切にしてまいります。こちらこそよろしくお願いいたします。③新しい刺激をたくさん感じていただけているようで嬉しいです。今後もお子さまの興味や成長に合わせた関わりを工夫していきます。

（別紙５）

公表　　事業所における自己評価結果

事業所名	株式会社SLC　ことばと発達の相談室	公表日	R8年4月6日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7		バリアフリーへの配慮はまだ出来てないので1階での実施の際に物の数を減らし、段差も削れればいいと思う	安全にしっかり配慮しながら対応していく。安全性に不安がある場合は、１階の支援室での支援に切り替えるなど一人ひとりに合わせて対応する。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	6	外部評価は行っては無いが、外部からの意見をちゃんと採り入れていると思う。	現在、第三者による外部評価は実施してない。今後は、系列店の管理者による相互評価を取り入れ、客観的な視点を業務改善に活かしていく。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	7			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			

援の提供	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6	1		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6	1		個別も集団もお子さんの状態に応じて実施している。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	3	各担当がお子さん一人一人の支援を考える。分からない時に周りに相談する。	業務の空き時間等でケース会議を行うようにしている。分からない事があればお互いにサポートできる職場環境を維持・推進する。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	3	3		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	7			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7			
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	1		
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	4	3		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2		
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	1		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	0	7	地域の児童発達支援センターがどこが担っているのか？どんな専門家がいるのか？何をしているかまったく不明瞭。	研修会等の連絡があれば、スタッフにも周知していく。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	4	3	そういった機会はまだない	保護者同伴のサービスを行っており、児童クラブや学校担任と交流を行うことが職員個々ではできていないが、管理者や他施設の代表者レベルで連携を推進している。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7			個別支援を行っている関係上、開催日時によって参加できない職員が生じる。時間調整できる代表や児童発達支援管理責任者が参画している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5	2		毎回、担当スタッフが保護者の意見を伺い、専門的な見立てに基づいたフィードバックとアドバイスをおこなっている。今年度、子育ての困り感への対応について動画配信を企画している。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	6	1		毎回、担当スタッフが保護者の意見を伺い、専門的な見立てに基づいたフィードバックとアドバイスをおこなっている。今年度、子育ての困り感への対応について動画配信を企画している。

保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	7			
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	1	6		毎回、担当スタッフが保護者の意見を伺い、専門的な見立てに基づいたフィードバックをおこなっている。今年度、子育ての困り感への対応について動画配信を企画している。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5	2	保護者同士の関わりが増えればいい	今年度、保護者会を行ったが、保護者も大変忙しく、保護者会や相互交流の場に参加するのも困難な状況と考える。同伴される保護者同士が挨拶程度の関わりができるように指導員が働きかけを行うようにする。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4	3		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7			広報担当を置き相当数の広報を行った。今後はInstagram等から公式LINEへの誘導を実施する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	2	イベントは多くないので、時間を作って関わりが増えるといい	当事業所の特性上集団での活動や行事は現在難しい。市民公開講座を引き続き開催し地域に開かれた事業所になるよう工夫する。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4	3	利用者をみんな集めて避難訓練が難しい	職員に対する訓練を定期的に実施する。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	2	5	利用者をみんな集めて避難訓練が難しい	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	1	食事の提供を行なっていない	発達に関して必要な情報であるため、初回面談時には保護者より聴取する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6	1		安全管理に関する研修会への参加や伝達講習を行い、職員の知識習得に努めるようにする。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	6	1		マニュアル化を検討し、職員が共通の方針で対応できるように整備する。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			ヒヤリハットについては情報共有しているが、これまでに該当事案が起きておらず事業所独自の事例集作成はできていない。今後一般的なものを参考に作成を検討する。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			今年度、職員全員に実施予定である。